



第23回

## ニワトリ小屋

移住して10年が過ぎたころから、DIYで施工したあれやこれやの不具合が出てきた和田邸。前回のウッドデッキ改修に続き、今回は屋根が傷んで雨漏りするようになったニワトリ小屋の建て替え。

広さや構造、産卵箱や給水器など、ニワトリ小屋ならではのポイントも紹介。

文/和田義弥 写真/阪口克 イラスト/和田義弥

かかった費用&用意するもの

約1万1030円

使用部位	材料	寸法(mm)	数量	価格
基礎	ヒノキ丸太	500	4	0円
土台	廃材	90×90×2000	4	0円
柱	廃材	90×90×1800	4	0円
間柱	廃材	90×90×1600	2	0円
間柱	廃材	90×90×1700	2	0円
梁	廃材	90×90×2100	2	0円
桁、棟木	廃材	90×90×2730	3	0円
小屋束	廃材	90×90×450	2	0円
垂木	福木	1500	14	0円
屋根椽木	アカマツ野縁	30×40×3000	10	2300円
金網押さえ	アカマツ野縁	15×45×4000	6	1848円
屋根	波板	6尺	10	0円
屋根	棟カバー	6尺	2	1996円
扉枠	廃材	38×89×1820	1	0円
扉	古い小屋の流用			0円
壁	廃材	15×90×1800	20	0円
金網		910×7000		3486円
埋設丸太		1600	4	0円
給水器				1400円
産卵箱	廃材			0円
止まり木	自然木			0円

### 人カ社

ライター中山和田、カメラマン阪口による旅とDIYを得意とする3人組ユニット。本誌連載「人カ山荘」シリーズについては「笑って! 古民家再生」「笑って! 小屋作り」(いずれも山と溪谷社)が発売中。人カ社HP → [www.jinriki.net](http://www.jinriki.net)



▶雨漏りに加え、家の北側の湿気が多い場所に立っていたこともあり、建築から8年で腐朽が進行した古いニワトリ小屋。



▶土台、柱、梁、桁に仕口を刻んで組んだ軸組構法の小屋。壁は金網で風通しをよくし、外敵の侵入を防ぐため土台の下に半割りの丸太を埋めている。



和田

**ポイント** 小屋は水はけのよい乾いた場所に建てるのが理想だが、土地の都合上、家の北側のやや湿気が多い場所への建築となってしまった。そのため、基礎を高く立ち上げて土台を地面から20cmほど離した。敷料の厚みも同じくらいになるので、それで湿気が吸収される。敷料は半年〜1年で分解されるので堆肥として取り出し、新しいものに交換する。

広さは10羽1坪が目安  
風通しよく、外敵対策も

8年ほど前に建てたニワトリ小屋の雨漏りがひどい。端材を使って板葺きした屋根が半ば朽ちてしまったのだ。木は腐るものなので、いずれこうなることは見越していたが、雨漏りして、そのまま放っておいたので、柱や梁などの構造体も傷みはじめ、地面と接している土台は腐ってかびかびである。

和田「そろそろ限界かな」と中山「これもゴミだな」阪口「前回のウッドデッキとい

## Step 1 基礎の設置と棟上げ

▶新しいニワトリ小屋は、古い小屋のすぐ隣に建てることに。小屋の四隅に基礎となるヒノキの丸太を埋める。この後、古いニワトリ小屋は解体した。



▶半割りの丸太を埋める。完全に腐るまで何年かかるかわからないが、小屋の構造には影響を及ぼさないで、また別の丸太を埋め直せば問題はない。

を張り、その上は金網にして風通しをよくする。小屋の下部を金網にしないのは、イタチや野犬などの外敵から視認しにくくするためだ。床は設けずに土の地面に糞や糞や糞や糞を厚く敷く。ニワトリの習性で地面をひっかき回すので、ふんが敷料と混ざって発酵し、良質の堆肥になるのだ。

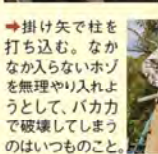
水野「屋根にする波板に釘穴が開いているけど」和田「昔建てたサウナ小屋に使っていたタンだね。水野さんコーキングよろしく」阪口「柱に使う廃材、加工の跡がすごいんですけど」和田「解体現場からもらってきた、うちで薪割つて、必要なくなったので解体した材だ」中山「どんだけ使ったよ」

とになるのかしら……」阪口「始める前から徒労感が湧いてるよ。帰っていいですか」和田「そんなこと言わないで!」中山「ちなみに今回の費用は?」和田「買ったのは金網や足りない木材などで、約1万円!」阪口「また、ケチったね!」和田「いいの。安く済んだらうれしいでしょ」

▶棟上げに先立って、材料には仕口を刻んでおいた。まずは基礎の上に土台を組み。丸太を掘って基礎と土台は金物で固定する。



▶土台を掘り付けたら次は柱を立てる。4本の柱のうちこだけ丸太なのだが、これがあとでやっかいの原因に。



▶掛け矢で柱を打ち込む。なかなか入らないホゾを無理やり入れようとして、パカパカで破壊してしまうのはいつものこと。



和田「前回のウッドデッキでもよつと蓄積してしまったので、今回は材料をケチりました」

水野「数年後、また建て直すこの小屋も長くないな……」和田「処分に困っていったから、イタチ除けとして地面に埋めて腐らせちゃおうと思つて」中山「溶けるまで使う気か 笑」

水野「半分腐ってるけど……」和田「そんなことないから」中山「いい材料使つて長持ちする小屋を建てたほうが、結果的に安いのでは?」和田「そ、そんなことないから」水野「フランスにこんなことわざがあるらしいわよ」

和田お得意のシリコンプレー

▶棟木を載せる前にホゾにシリコンプレーを塗布する。すべりがよくなって、キツイホゾもスムーズに入るのだ。



▶小屋のてっぺんに棟木を載せる。和田が1人で棟上げをしている間、担当・水野は古い小屋の解体にこき使われている。



汚い、怖い、臭いのヨキ!



▶棟木が取まって、ホッと一息。材料の廃材にはとこころにこれまで使われていた加工の跡が残る。



▶柱の上に梁を渡し、梁に交差するように桁を置いて、棟木を載せるための小屋束を立てる。



▶例によって、ホゾの寸法が間違っており、その場で調整する。スムーズにいったためしがない。

